

学校 教育 目標	『光 あふれる 西柴 ～ふれ合い まなび合い とともに輝く子～』 ○自分らしさを発揮し、豊かな感性を育み、自分の思いや考えを伸び伸び表現できる子を育てます。【知・開】 ○豊かなかかわりの中で、自分を大切にし、互いの生き方を認めていく子を育てます。【徳】 ○健やかな心と体を育み、自分や人の命と体を大切にする子を育てます。【体】 ○人や自然、地域を大切にし、思いやりをもてる子を育てます。【公】				
	創立 54 周年	学校長 永島 典子	副校長 田邊 訓志	2 学期制	一般学級：18 個別支援学級：6
学校 概要	児童生徒数： 531 人		主な関係校： 横浜市立西柴中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	西柴中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		<p>自他の多様性を尊重し、豊かな関わり合いの中で、自己有用感を育み、未来へ主体的に関わる子</p> <p>・小中一貫教育推進のため、小中ブロックで連携・協働して、9年間で育てたい子ども像を共有したうえで、小学校、中学校の授業公開を行う。また、小中合同授業研究会において発達段階に応じて「共通取組項目」の内容を検討する。 ・児童生徒交流日に行われる生徒会による学校紹介や部活動の見学で積極的に児童・生徒の交流を図る。</p>
<p><自分づくりに関する力> <課題解決能力></p>		

中期 取組 目標	<p>○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的・対話的な学びを充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、判断、選択、表現し、課題解決をしていけるような授業づくりを推進します。 ・自分のよさを発揮し、自己を高めようとする意欲をもたせます。 ・他者を受容しながら自分のよさを発揮し、向上心をもてるようにします。 <p>○他者や多様な文化を認められるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰にでも挨拶ができる」「相手の気持ちを考える」など、様々な立場に立って物事を考えようとする姿勢を育てます。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①各単元や各授業の中で、「主体的・対話的で深い学び」の子どもの姿を想定し、それに迫る手立てを考え、子ども自らが学習の方法や場を選択し、考えを説明し合えるような仕掛けの工夫を考える。②重点研究テーマや学校教育目標の実現にむけて、自分の思いを表現したり伝え合ったりする子の育成をめざす。
担当	重点研推進委員会	
徳	道徳教育	①豊かなかかわりの中で、自分を大切にし、互いの生き方を認めていく子を育てるため、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③自分の考えを言ったり、話したりすることや友達の考えを聞くことを通じて、自分自身の見方・考え方を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。④「道徳教育は日常のあらゆる機会を捉えて行うこと」「評価で、年間の道徳的な見方・考え方の変容をみるための工夫」「対話的な授業を目指す授業の工夫」などについての研修を、毎年行う。
担当	道徳部	
体	健康教育	①子ども一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の結果に基づいて、規則正しい生活(早寝・早起きの励行、朝食を食べたり、適度な運動をしたりする等)を送ろうとする姿勢を培う。 ②ともキラ活動を通して外遊びや運動の推進を図り、健やかな心と体を育む。楽しく体を動かし、たくましく生活できる力を育て、「ともキラ班遊び」や集会などを定期的に行うことで、日常的に運動を取り組む態度を養う。
担当	体育部	
公開	自分づくり (キャリア教育)	①子どもたち自らが積極的に地域と関わることを大切にして、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況や発達段階に合わせてキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
担当	児童指導部	
	いじめへの対応	①いじめを積極的に認知し、子どもの心情に寄り添う。②月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の対応を丁寧に行うことで再発防止に努める。③いじめ防止研修の他、いじめに関する情報等をこまめに共有して、全職員がいじめに対するアンテナを高くするとともに、年4回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。④「いじめ」の未然防止についての話し合いや具体的な活動を通して、子どもたちがいじめ防止に主体的に関わることができるようにする。
担当	いじめ防止対策委員会	
	人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続して行う。メンターチームのメンバーで内容を自ら設定し、学べる体制をつくる。②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。 ③中学年では交換授業、「チーム担任制」、高学年は、各担任や専科などで教科を分担して受け持つ教科分担制「チーム学年経営」を行うことで、教材研究や事務処理の時間を確保する。
担当	教務・メンター	
	縦割り班活動	①縦割り班で遊ぶ活動を5月に行った後、縦割り遠足として海の公園に行き、異学年の交流を進める。 ②ペア学年の交流を年に2回行うことで、上学年はリーダー性を高め、下学年は上学年への親しみをもつようにする。 ③年間3回ほど縦割り班集會を行い、各学年の目標を達成していくようにする。 ④縦割り班を生かして、新体力テストや長縄の活動などを行い、異学年の交流を深める。
担当	ともキラ委員会	
	GIGAスクール構想	ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学び・協働的な学びの実現を目指していく。職員のスキルアップを目指し、相互に情報交換をしていながら授業や業務への効果的な活用方法を見出していく。児童自ら数ある情報や媒体を自ら取捨選択し、自分の意見や考えを表現していけるよう支援していく。引き続き効果的な活用方法について研修をつみながら児童のみならず、職員のスキルアップをはかり、校務改善にも繋げていきたい。
担当	GIGA委員会	
	幼保小中一貫	①幼稚園・保育園から小学校へ子どもの育ちと主体的な学びをつないでいくために、1年生が年間を通して近隣の幼稚園・保育園の園児たちと交流をしていく。職員同士もお互い参観に行き来するなどして情報交換をする。 ②小学校から中学校へつないでいくために、様々な場面で中学生との交流場面を図っていく。小学校児童と中学生と、子ども同士との活動を探っていく。
担当	幼保小・小中一貫	
担当		